

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 いころきつず/いころきつず2			
○保護者評価実施期間	2025年9月15日		～	2025年10月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22名	(回答者数)	11件
○従業者評価実施期間	2025年9月1日		～	2025年9月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数)	14名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月10日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の得意分野が多種多様のため、提供できる活動プログラムの内容が充実していること。	各職員がリーダーを担うことで、同じテーマでも活動内容が多岐に渡り充実した時間を提供できる。	職員の強みを活かすだけではなく、お互いのアイデアや情報共有をしていることで、支援の質の向上につなげている。
2	テラス・静的な活動・動的な活動・グループワークができる場所など、活動に適した環境の構造化が図れていること。	子ども達が活動内容に集中できるよう、パーティーションや仕切り、状況に応じて少人数グループを作って取り組んでいる。	社会性を広げていくために、行事などでは地域交流や、休日には公共交通機関の利用や調理(買い物)活動の充実を図っている。
3	言語聴覚士や作業療法士、園芸療法やプログラミングの有資格者からの活動プログラムの提供があること。	専門職からの関わりや見立てのフィードバックを受けて、職員が日々の活動や関りに反映している。	職員も外部研修の機会を活用して自己研鑽に努め、学んだ専門的知識を職員研修等で共有している。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	HUGにて活動報告はできているが、保護者様との面談や茶話会、顔を合わせて話せる時間・機会の確保が十分にできていないこと。	時間調整や日時の組み方、ニーズの把握がし切れていないところ。	面談の仕組みを作って定期的に行うことができるようにする。
2	園や学校、他機関との連携が十分に取れていないことや、地域との交流がまだ浅いこと。	日々の活動を優先しているため、連携の調整や時間が取れていないところ。イベント等は利用家庭のみを対象として企画しているところ。	関係機関連携や事業所間連携を提案していく。夏祭りやハロウィンイベントでの成功体験や繋がれた地域交流を広げていく。
3	災害や事故対応の際の、家庭との情報共有が密に図れていないこと。	災害時の対応や、避難訓練実施の有無について全家庭に周知ができていないため、周知手段に課題がある。	HUGの一斉周知ツールを活用し、写真なども添付することにより、全家庭と共有を図っていく。